No Landslide Anymore! Crossing 'Kamenose' the heart of the ancient Tatsuta Road

龍田古道をゆく万葉びとが残した、想いにふれる。

龍田古道の道中にある亀の瀬は人々にとって心理的な障壁となる天然の関所として恐れられていたため、「万葉集」では国境の峠が「恐(かしこ)の坂」と詠まれています。多くの文化人や貴族が龍田古道を通るようになると亀の瀬は「恐れ」だけでなく「都を離れるノスタルジー」の象徴に。そのため、多くの万葉びとはこの地を越える際、恋人や家族を想い龍田山を歌に詠んだのです。

龍田山を詠んだ万葉和歌

人もねの うらぶれを居(を)るに 龍田山
みま御馬(みま)近づかば 忘らしなむか

「万葉集」巻5-877　山上 憶良
解釈：人がみな侘しくお慕いしているのに、
龍田山に御馬が近づいたら、
あなたはわれわれをお忘れになってしまいましょうか。

他にも、この地に関係する万葉歌は30首ほど詠まれており、
龍田大社の境内やJR三郷駅などに
万葉歌碑が建てられています。

地すべりに関する構成文化財

旧大阪鉄道亀瀬隧道(ずいどう)

明治25年に完成しましたが、昭和6年の地すべりで入口部分が崩壊し、線路は大和川左岸に移されました。平成20年に隧道の内部が良好な状態で残っていたことが発見されました。

第三大和川橋梁

昭和6年に発生した地すべりによって、鉄道が大和川の左岸へ迂回された際に架橋された鉄橋。河川に対して角度をつけて架けられており、当時の逼迫した状況を今に伝えます。

第四大和川橋梁

第三大和川橋梁同様、昭和6年に発生した地すべりによって架橋された鉄橋。河川に対して角度をつけて架けられた構造は鉄道ファンの評判になっています。

亀の瀬地すべり歴史資料室

亀の瀬の過去の被害状況の記録が絵葉書などの資料として保存されているほか、これまでの対策工事の記録資料も保存展示されています。

龍田古道沿いの構成文化財 [平城宮〜難波宮]

平隆寺跡

大和に入り、三郷町の北東の勢野地区は平群氏が治める平群谷の南端となりました。高台に氏寺「平隆寺」を建てたのは、大和川の水運、龍田古道を意識していたことが分かります。

関地蔵

天武天皇の御世に置かれた「龍田の関」を示す地蔵尊。明治に入り現在の国道25号線が敷かれるまでは、大阪と奈良の通行を管理する場所で、通行料等を徴収していました。

青谷遺跡(竹原井頓宮跡)

大和川北岸に設けられた奈良時代の離宮跡。聖武天皇らが平城宮と難波宮との往来に際して宿泊に利用。対岸に河内国分寺跡があり、景観も意識した立地となっています。

芝山

湾曲して流れる大和川に浮かぶようにみえる芝山。その風光明媚な景色は、万葉集に「島山」と詠まれました。

夏目の渡し跡

大和川の川幅が最も狭い場所で、両岸を結ぶ渡しがありました。ここで対岸へ渡り人々が往来しました。現在は、スリル満点のつり橋がかかっています。

河内国分寺跡

竹原井頓宮の対岸に、聖武天皇の命令で建立されました。対岸に竹原井頓宮跡があり、宮や古道から眺める七重塔は壮観だったはずです。塔跡は復元整備され見学可能です。

松岳山古墳

全長130mの前方後円墳。石積みの墳丘は往来の人々を驚かせ、白く輝く古墳は龍田古道の目印となったことでしょう。日本最古の「船氏王後墓誌」(国宝)はこの付近から出土したとされています。

智識寺跡

仏教に深く帰依した信徒(知識)によって建立された寺院。聖武天皇が難波宮への行幸の途中、智識寺の盧舎那仏を拝まれたことが、東大寺大仏造立のきっかけとなりました。

信仰に関する構成文化財

龍田大社／例大祭と風鎮大祭

龍田古道の信仰上の中心となる社。天武天皇の御世に都の西を司る国家的な風神として祀られました。平安時代の『延喜式』には風神祭の記述が見られ、以降、龍田地域の権威の象徴として交通や水運と大きく関わっています。風神祭は今の例大祭と風鎮大祭に繋がっており、祭祀の中に大和川の治水や龍田山の山岳信仰の名残りがあります。

御座峯

龍田大社の神域で、風神が降臨した地とされ祀られています。「風鎮大祭」の翌日にはこの地で祭祀「山神祭」が行われます。龍田大社の信仰と龍田山、龍田古道との関わりを示しています。

三室山

龍田古道のうち亀の瀬を迂回する道が通り、龍田山の裾野にあたります。龍田大社の神域であり、信仰の対象にもなっています。磐座や御座峯に繋がることから通称は「神降りの道」です。

亀岩

亀の瀬の語源となった亀形の奇岩。亀石が動くと洪水になるという飛鳥の伝承は、この亀岩のことでしょう。役行者の葛城修験最終地でもあります。

磐瀬の杜

龍田大社の飛地で、大和川の水神を祀っている場所。例大祭に繋がる祭祀「滝祭」ではここから水神を降ろし、龍田大社にお連れします。龍田の風神と大和川の治水との関わりを今に残します。

峠八幡神社

川沿いの龍田古道で最も標高が高い場所にある神社。古道を行き交う人々が、天然の関であるこの地で、旅の安全を祈願したことに始まるとされています。

竜王社

近世に大和川を運航した剣先船の船付場跡。舟運の安全を祈って祀られた神社で、剣先船仲間が奉納した石灯籠が残っています。龍田大社の信仰と亀の瀬との繋がりを今に残します。

龍田神楽

立野の坂根地区には坂本家という巫女の家系があります。坂本家は龍田大社の神事に大きく関わっており、風鎮大祭で舞う「龍田神楽」は同家に代々伝わるもので、龍田姫信仰を連想させます。

奚婁鼓(けいろうこ)

龍田大社に伝わる平安末期に作られた雅楽用の太鼓。舞楽『一曲』の左方舞人が用いるものです。龍田大社で行われていた神事に関わるもので、古代の儀式を示す重要な資料です。

No Landslide Anymore! Crossing 'Kamenose' the heart of the ancient Tatsuta Road